

## 前回検討会 意見対応

重要種に係わる情報については、原則非公開とさせていただきます

令和8年2月5日

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

# 前回検討会意見と対応

## 1) 前回意見対応

No	意見（概要）	対応（事務局回答）	今回資料
1	・ 特になし	—	—

## 2) 令和6年度 モニタリング結果（干潟）

No	意見（概要）	対応（事務局回答）	今回資料
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シギ・チドリ類は、矢作川河口部だけでなく地域全体で減少している。その要因として、周囲の水田の減少、海岸部の埋立事業の進行に伴う湿地の減少など、後背地の環境変化によるところも大きいことから、干潟だけでは議論できないと考える。</li> <li>・ 水田の減少や下水処理の整備による栄養塩の減少の影響も大きいと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川管理者として、流域治水の取り組みとして、各関係機関と情報共有を図っていく。</li> </ul>	干潟のモニタリング結果について説明資料へ記載【資料-2】
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三河湾のアサリについては10年近く資源量が減少しており、栄養不足が原因と考えられている。西三河全体の栄養不足が矢作川河口部にも表れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係期間との情報共有を図り、モニタリングの考察等の参考とする。</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 干潟施工は窪地への土砂投入により行われ、その後の出水で細粒土砂が下流へ流され、地盤高が低下している。ただ、0.2k+160m測線の左岸から50m付近は、マウンド化しており、航空写真から植物が繁茂していることが想定される。植物が繁茂する場所を鳥類が利用しているようなら、干潟再生の面積を増やす目標とは異なるが、多様な環境を創出したと言えるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後のモニタリングの参考とする。</li> </ul>	

# 前回検討会意見と対応

## 2) 令和6年度 モニタリング結果（干潟）

No	意見（概要）	対応（事務局回答）	今回資料
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>底生動物の、0.2k+160mにおいて、枠8で確認種数が増えている。枠8の位置は左岸の堤防から流心方向に向けて傾斜が緩くなる変化点であり、複数の生物の生息に適した地盤高となっていると考える。「底生生物と干潟地盤高の関係」とも照らし合わせて考察ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング結果の考察において参考とする。</li> </ul>	干潟のモニタリング結果について説明資料へ記載【資料-2】
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟施工箇所での底質調査結果について、0.6k+00m測線において施工後12年目付近で粒度組成のシルト分の増加、ORP（酸化還元電位）の低下、強熱減量の増加が生じている。干潟施工区は、施工当時は土砂が堆積傾向であったが、近年は浸食傾向にあり、浸食が始まったのが施工後12年目付近であることから、底質と地形の変化のタイミングが一致している。恐らくこの変化には周期があると考えられ、再度同じような変化が生じると推察される。底質と地形の動態を把握するため、同じような変化が生じるまではモニタリングを続けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河口部の地形の動態は、出水が重要な要因であると考え。意見を踏まえた上でモニタリングを継続したい。</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>底生動物の指標種の確認状況について、アサリと■■■■■■■■■■を対象に整理されているが、河口域で■■■■■■■■■■が多く取れていることから、■■■■■■■■■■を指標種としたらどうだろうか。</li> <li>河口部について、掘られていた水路が埋まり、塩水遡上が遮られることで塩分濃度が低下し、■■■■■■■■■■は生息できるがアサリが減少しているという状況と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■■■■■■■■■■についても過去からデータは取得しており整理は可能であるが、モニタリングしている測線の今年度の結果は割合としては多くはない。■■■■■■■■■■の確認割合が大きく変われば、その要因と併せて整理したい。</li> </ul>	

## 2) 令和6年度 モニタリング結果（ヨシ原）

No	意見（概要）	対応（事務局回答）	今回資料
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>中州でもヨシ原が分布している場所もあり、オオヨシキリ等も確認されている。大きな出水があると、中州が増えることで河岸のヨシ原が削られてしまうため管理が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考意見とする。</li> </ul>	ヨシ原のモニタリング結果について説明資料へ記載【資料-3】
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度施工ワンドの地下水について、満潮時にワンド上流の辺縁部に染み込んだ水は、干潮時にワンドの底から染み出るサイクルを確認しており、染み出る水はワンド内の水温と比べて冷たい。上塚橋上流側のワンドからの伏流水の染み出しも起こっていると考えるが、非常にゆっくりだと思われる。</li> <li>ワンド内は本川接続部が閉塞気味である影響で水が溜まりやすいが、干満の差は現れるような状況である。水が溜まりやすいことが、草本や木本の侵入を防ぐ機能を果たし、ヨシ原の定着を促す可能性があり、モニタリングの視点の1つとも考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伏流水については、調査時に留意する。</li> <li>地域イベントとしてヨシ植えを行っているが、冠水頻度が高すぎてヨシが定着しない状況かと考えている。しばらくは継続的にモニタリングを続けていく。</li> </ul>	

# 前回検討会意見と対応

## 3) 矢作川自然再生計画【河口部再生編】計画の見直し

No	意見（概要）	対応（事務局回答）	今回資料
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>矢作川自然再生計画の見直しについて説明し、事業の延伸等の矢作川自然再生計画書更新について承認。</li> </ul>		—

## 4) 自然再生計画の現状と今後の対応方針

No	意見（概要）	対応（事務局回答）	今回資料
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の確認個体数等について、年ごとの変動はあるようだが、土砂管理も含め自然の営力も活用して干潟、ヨシ原の回復を進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考意見とする。</li> </ul>	今後の自然再生事業の方針について説明資料へ記載【資料-4】
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨシ原面積について、砂州の前進により徐々に中洲面積が増えていることから、中洲に分布するヨシ原も増えていると考えられるが、中洲のヨシ原面積も集計対象としているのか気になる。干潟と同様だが、<b>地形や植生の動態を把握した上で、どれほど手を加えるかを考えるべき</b>である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨシ原面積は中洲を含めて、9kより下流を集計している。</li> <li>今後の自然再生は地形変化等も考慮し、検討を進めていく。</li> </ul>	
13	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>河岸側のヨシ原が浸食を受けるのは、中洲の影響もある。中洲が大きくなる前に堆積を予防するなど、滞筋、中洲の管理を行うのが良いように思う。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>治水、土砂管理、自然再生等、コミュニケーションを取りながら進めていけるよう、引き続きご助言などいただきたい</li> </ul>	
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>河道管理の視点で、低水路の切り下げ方はこれまで議論してきており、<b>令和4年度のワンド施工区は、令和5年6月出水でも形状が概ね維持できることが証明された。望まれる姿としては、低々水路により維持管理的にコントロールし、中洲が発達しないように考えるべき</b>に思う。</li> </ul>		